

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事 住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 大阪市西成区花園南1丁目4番4号	氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名) <b>代表取締役 林 紀男</b> 電話
--	--

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	衣料品、食料品、住居関連商品の販売							
該当する事業者要件	v 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))							
計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月							
基本方針	各店舗で省エネ、省資源に取り組むことにより、CO <sub>2</sub> の削減に取り組む							
推進体制	*各店舗ごとに、「環境責任者」を任命し、環境責任者が店舗の省エネ、省資源についての責任を持ち、従業員全員で取り組む							
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容					
	18年	温度設定	*冷暖房の設定温度は政府推奨温度を勘案の上設定、お客様にもご理解いただく。					
	18年	照明の無駄の排除	*閉店、閉店時の無駄な照明の削減。不要な照明の消灯 (バックヤード、トイレ等)					
	18年	業務車両のエコ運転	*業務車両の運転時においてはエコドライブを実施、駐車場におけるアイドリングストップ運動。					
	18年	電源のOFF運動	*一時間以上使用しないPCはシャフトダウンする。					
18年	リサイクル運動	*古紙、缶、ビン、ペットボトル等の分別リサイクル運動の推進。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (17) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	目標年度 (計画) (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	削減率 (計画) (%)	報告年度 (実績) (18) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	削減率 (実績) (%)		
		A 事業所等排出区分	22,259 t	23,578 t	5.9 %	24699 t	10.9 %	
		B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
		C その他排出区分	t	t	%	t	%	
		排出合計	*1 22,259 t	*2 23,578 t	5.9 %	*3 24699 t	10.9 %	
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)			
		取組量等			取組量等			
		森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t	(整備面積) ha	(吸収量) t	(整備面積) ha	(吸収量) t
		府内産の木材の利用	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t
		自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kWh	(削減量) t	(発電量) kWh	(削減量) t	(発電量) kWh	(削減量) t
		グリーン電力の購入	(購入量) GJ	(削減量) t	(購入量) GJ	(削減量) t	(購入量) GJ	(削減量) t
		グリーン電力の購入	(購入量) kWh	(削減量) t	(購入量) kWh	(削減量) t	(購入量) kWh	(削減量) t
		削減量等合計	*3 t			*5 t		
		差引排出量 (排出合計 - 削減等合計)	基準年度 (実績) *1 22,259 t	目標年度 (計画) *2 23,578 t	削減率 (計画) 5.9 %	報告年度 (実績) *3 24699 t	削減率 (実績) *4 10.9 %	

特記事項 \*八幡店のH17年度の稼働が4ヶ月足らずで、18年の想定CO<sub>2</sub>排出量を2552tと予測したが、夏場の冷房等の電力消費量の増加で、着地が3346tになる。その結果当初見込みより794tの差異が生じた。その結果、既存の店舗の計画はH17年度比で1%削減目標に対し99.5%と目標値には0.5%未達に終わったものの、削減は出来たが、八幡店の影響があり当初1年目の目標を大幅に上回る結果となる。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。  
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入  
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比エネルギー単位CO<sub>2</sub>排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの系別指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。